

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

インド、価格転嫁浸透により高インフレ率続く(Asia Weekly (8/15~8/19))

～台湾、2Qは上方修正も先行き不透明で通年の経済成長率を下方修正～

発表日: 2011年8月20日(土)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

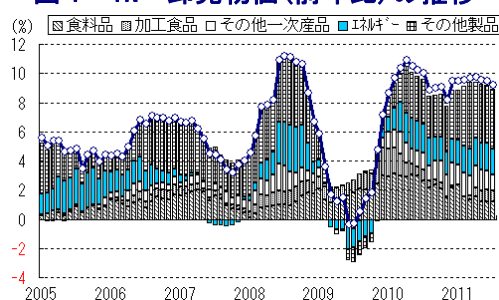
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/15 (月)	(シンガポール) 6月小売売上高 (前年比)	+10.9%	+10.0%	+9.6%
	(前月比/季調済)	+1.6%	+1.0%	▲0.8%
	(フィリピン) 6月海外労働者送金 (前年比)	+7.0%	-	+6.9%
8/16 (火)	(インド) 7月卸売物価 (前年比)	+9.22%	+9.20%	+9.44%
8/17 (水)	(シンガポール) 7月非石油輸出 (前年比)	▲2.8%	+4.6%	+1.0%
	(前月比/季調済)	▲2.3%	+0.5%	▲4.1%
	(マレーシア) 7月消費者物価 (前年比)	+3.4%	+3.5%	+3.5%
	4-6月期実質 GDP (前年比)	+4.0%	+3.6%	+4.6%
8/18 (木)	(香港) 7月失業率 (季調済)	3.4%	3.5%	3.5%
	(台湾) 4-6月期実質 GDP (前年比/改訂値)	+5.02%	+4.89%	+4.88%※
8/19 (金)	(台湾) 7月輸出受注 (前年比)	+11.12%	+11.04%	+9.18%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。※は速報値。

[インド] ～価格転嫁の動きが進み、依然物価上昇圧力は熾っている～

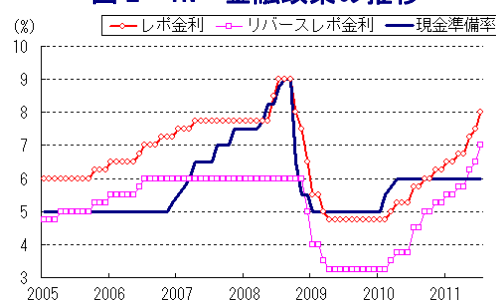
16日に発表された7月の卸売物価は前年同月比+9.22%となり、前月(同+9.44%)から伸びが鈍化した。しかし、前月比は+0.65%と前月(同+0.39%)から上昇ペースは高まっており、食料品や一次産品価格の上昇に一服感が出ているものの、工業製品に対する価格転嫁が進んでおり、物価上昇の裾野は拡大している。金融当局は直近の金融政策委員会において、短期的な経済成長より物価抑制を重視して利上げ幅を引き上げているが、依然物価上昇圧力は熾っていることから、今後も引き締め姿勢は続けられよう。

図1 IN 卸売物価(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 金融政策の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾] ～4-6月期の成長率は上方修正するも、世界経済の不透明感を反映して通年見通しは下方修正～

18日に発表された4-6月期の実質GDP成長率(改訂値)は前年同期比+5.02%となり、速報値(同+4.88%)から+0.14p上方修正された。前期比も+0.23%と速報値(同▲0.92%)からプラスに転じている。個人消費や政府消費、輸出が下方修正され、輸入も速報値を上回ったが、全体的には上方修正が行われており、資本投資や在庫投資などが押し上げに貢献した。一方、世界経済に先行き不透明感が高まっていることから、政府は通年の経済成長率の見通しを速報値時点(前年比+5.01%)から同+4.81%に▲0.20p下方修正してい

る。

19日に発表された7月の輸出受注は前年同月比+11.12%となり、前月（同+9.18%）から伸びが加速した。前月比も2ヶ月ぶりに増加しており、底堅さが確認された。景気の不透明感が高まっている欧米向けは頭打ちしたものの、アジア向けは中国本土向けを中心に堅調に推移している。足下ではアジア経済の減速も懸念されているが、年末にかけて徐々に回復感を強めると見込まれるため、緩やかな輸出拡大は期待されよう。

図3 TW 実質 GDP 成長率の推移

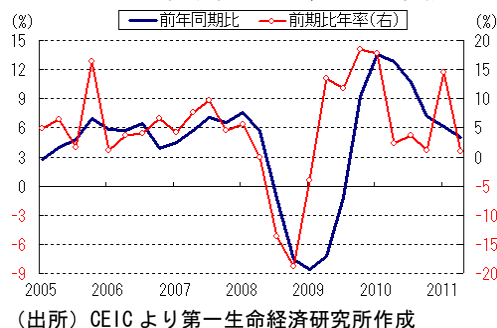
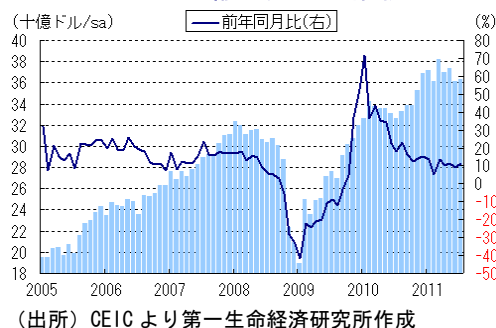


図4 TW 輸出受注の推移



【マレーシア】 ～雇用拡大を背景に内需は順調だが、世界経済の減速で輸出が下押し～

17日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+3.4%となり、前月（同+3.5%）から伸びが鈍化した。前月比も+0.19%と前月（同+0.29%）から上昇ペースが鈍化しており、食料品やエネルギー価格の上昇に衣服感が出ていることが影響している。一方、これらの価格転嫁が浸透していることや過剰流動性によりコア物価の上昇ペースは拡大しており、物価上昇の裾野は広がっている。世界経済が先行き不透明な状況において、輸出依存度の高い同国にとって利上げは難しい環境にあるが、追加利上げの必要性は高まっている。

同日に発表された4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+4.0%となり、前期（同+4.6%）から減速した。当研究所が試算した季節調整済ベースの前期比年率も+2.3%となり、前期（同+7.6%）から減速している。雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は堅調であり、政府の公共投資も下支えしているが、世界経済の減速に伴い輸出は大きく鈍化した。足下では、世界経済の先行きに不透明感が高まっており、これは先行きのリスク要因となろう。

図5 MY 消費者物価(前年比)の推移

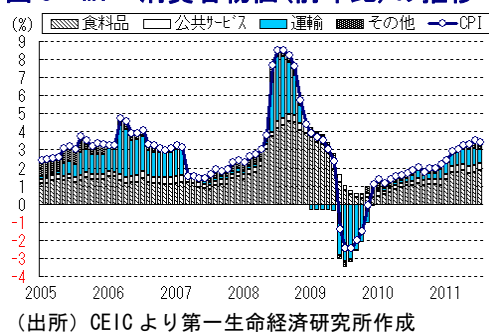


図6 MY 政策金利の推移

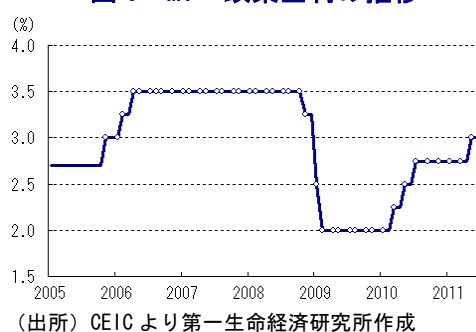
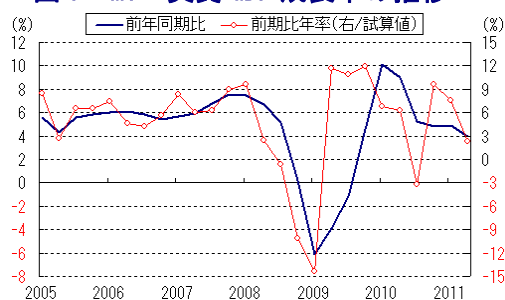
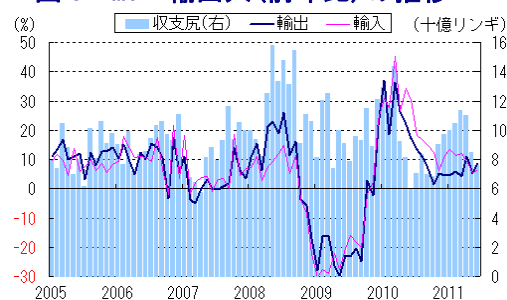


図 7 MY 実質 GDP 成長率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 8 MY 輸出入(前年比)の推移



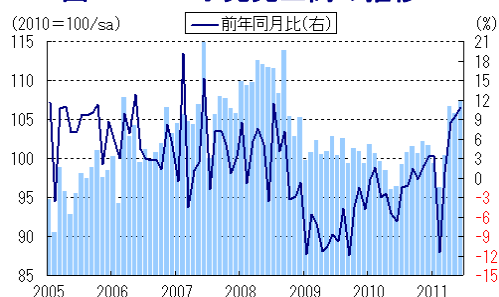
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～雇用改善を背景に個人消費は堅調だが、世界経済の減速で貿易動向は頭打ち～

15日に発表された6月の小売売上高は前年同月比+10.9%となり、前月(同+9.6%)から伸びが加速した。前月比も+1.6%と前月(同▲0.8%)から2ヶ月ぶりに増加に転じており、自動車販売の増加(同+4.6%)が全体をけん引している。これを除いたベースでも同+0.6%増加しており、衣服やレクリエーション関連、宝飾品などが拡大。なお、実質ベースの小売売上高も前月比+1.8%と前月(同▲0.6%)から増加に転じており、雇用・所得環境の改善が下支えしている。

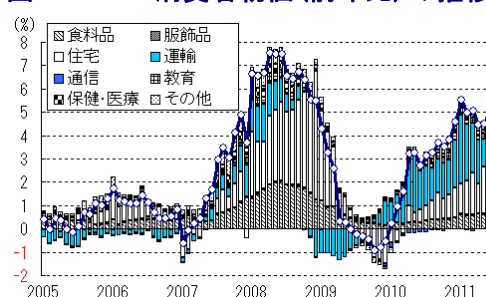
17日に発表された7月の非石油輸出は前年同月比▲2.8%となり、前月(同+1.0%)から減少に転じた。前月比も▲2.3%と前月(同▲4.1%)から2ヶ月連続で減少しており、電子部品関連の輸出が大幅に落ち込んだことが全体を押下げた。石油関連の輸出は堅調に推移したものの、総輸出額は前年同月比+3.2%と前月(同+6.0%)から伸びが鈍化しており、前月比も▲2.3%と前月(同▲2.3%)から2ヶ月連続で減少している。一方、7月の輸入額は原油・非原油ともに頭打ちしており、前年同月比は▲3.8%と20ヶ月ぶりのマイナスとなり、前月比も▲5.2%と前月(同▲5.2%)から2ヶ月連続で減少している。結果、貿易収支は+54.27億SGドルと前月(+46.01億SGドル)から黒字幅が拡大している。

図 9 SG 小売売上高の推移



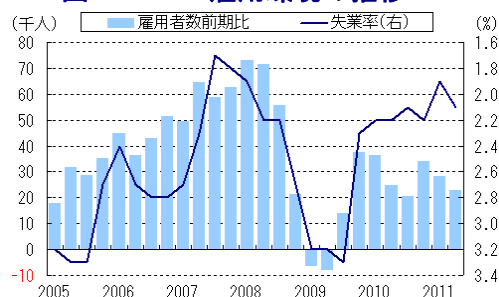
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 10 SG 消費者物価(前年比)の推移



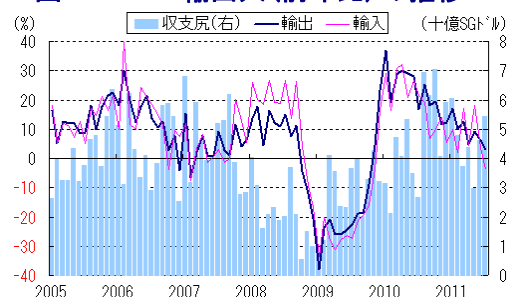
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 11 SG 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 12 SG 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上